宇和島福祉協会広報誌

だんだん

第4号
2023. 1

地域（ここ）で輝く　あなたらしく　わたしらしく

社会福祉法人 宇和島福祉協会
〒798-0013 宇和島市御幸町一丁目2番8号
TEL：0895-23-2940／FAX：0895-23-2941
ホームページ　http://u-fuku-kyo.com

特集 入所施設の現在（いま）
～求められる役割と今後の展望～

第一種社会福祉事業に位置付けられる入所施設は、今日まで障がいのある方やご家族のニーズに応えるため、その役割と責務を果たし、地域の基盤として利用者様の暮らしを支えてきましたが、近年、障害福祉をめぐる環境は大きく様変わりし、地域で暮らす人たちへの緊急対応や災害時支援を含む地域活動の拠点化など、これら施設に求められる役割や機能は拡がりの一途をみせています。

一方で入所者の重度化や高齢化への対応、強度行動障害や医療的ケアが必要な方に対する、より専門的な支援の提供等、施設が抱える課題も山積しており、これまで培ってきた力と専門性が、今まさに試されようとしています。

そこで今号では、当法人の中心でもあり、原点ともいえる「入所施設」に焦点を当て、各施設が抱える課題や取り組み、そして今後目指すべき方向性と役割について紹介させていただきます。

○用語解説（社会福祉事業）

社会福祉法人は大きく2つの事業体系に分けることができます。1つが第一種社会福祉事業で、もう1つが第二種社会福祉事業と呼ばれるものです。前述のとおり、入所施設は第一種社会福祉事業に分類され、原則として国・地方公共団体（都道府県・市町村）か社会福祉法人以外は、事業を営むことができません。

第一種社会福祉事業にこのようなきびしい規制がかけられているのは、事業やサービスの内容が利用者の尊厳に深く関わり、かつ社会に与える影響や存在も大きく、なにより、それを支える経営の安定と持続性が強く求められるからに他なりません。

ライフまつの（平成14年4月開設）

フレンドまつの（平成9年4月開設）

豊正園（平成元年4月開設）

これからの入所施設のかたち

豊正園施設長　平野富希子（ひらの ふきこ）

豊正園は平成元年に知的障害者更生施設として開設し、今年の春には35年目を迎えます。この間、障がい福祉を巡る環境や制度は目まぐるしく変化し、入所施設にも「地域移行の促進」や「時代に合わせた暮らしの場の提供」等が強く求められるようになりました。実際に長年暮らした施設を巣立ち、地域の一員としてグループホームでの生活を始められた方もおられます。

その一方で、障がいの程度や年齢、家庭の事情等により、実際に施設での生活を必要とし、更には暮らしの場として成り立っている現実があり、世の流れや制度との方向性に乖離が生じているようにも感じます。この乖離こそが、まさに入所施設における課題であり、「地域移行」「地域生活」とは何かということを、私たち施設職員に強く問いかけられているように思います。

また、災害発生時における福祉避難所の整備や緊急時の受け入れ、更には生活困窮者への支援等、実際に地域で暮らされている方たちを、高い専門性や柔軟性を持って支える、すなわち地域におけるセーフティーネットとしての役割を果たしていくことが、これからの入所施設に求められる役割の一つであり、今後目指すべき方向性ではないかと感じています。

来年度、豊正園は現在の宇和島市三浦地区から三間地区への移転を予定しています。移転後は居室も個室化され設備も整い、住環境は大きく改善されますが、生活の場が保障されるだけでは十分とは言えず、これまで三浦地区で培ってきたように、地域の方々との信頼性、関係性を構築していかなければなりません。まさに0（ゼロ）からのスタートとなりますが、新たな地でも利用者様と職員とがしっかりと手を取り合い、一歩ずつ着実に歩みを進めて参りたいと思います。

私たちの仕事と専門性

フレンドまつの施設長　岡村（おかむら）　雅人（まさひと）

私はフレンドまつのが開設された平成9年4月に、この施設の支援員として入職しました。その時に出会った利用者様や職員の初々しい顔を、今でも鮮明に覚えています。当時はほとんどの利用者様が、ご自身の力で歩かれ、農園で共に汗を流したり、スポーツを楽しまれたりしていましたが、当施設にも重度化・高齢化の波が押し寄せ、介護が必要な方や、車椅子での生活を余儀なくされる方が増えてきました。

このような厳しい状況のなか、私たちが並行して取り組まなければならないことが、発達障害や自閉症、そして強度行動障害がある方たちへの支援と、更なる受け入れ体制の強化です。どれも簡単なことではなく、今後も一歩ずつ着実に経験を重ねていく必要がありますが、これらを実現するために必要とされるのが、いわゆる「専門性」と言われるものではないでしょうか。

多様なニーズを有する利用者様に適切に応える援助技術の習得や、個々では対応しきれない課題を多職種間で連携し、協働で支援を進めるチームアプローチの実践等、学ぶべき範囲は多岐にわたり、そのどれもが重要なことではありますが、我々職員にとって一番大切なことは、目の前の利用者様の思いや気持ちに寄り添い、そして共に歩み続けることにあると私は考えます。

その歩みの中から、いわゆる信頼関係が生まれ、そこから見いだされた気づきを日々の支援へ反映させる。この一連のプロセスこそが、我々に求められる専門性の習得へとつながり、新たな可能性へ導いてくれるものと信じています。それは提供されるサービスが変化し、たとえ生活の場が移り変わったとしても同じであり、その重要性を次世代へと伝えていくことが、私たちの使命だと感じています。

福祉の魅力を発信したい

ライフまつの施設長　兵頭（ひょうどう）　勝仁（かつひと）

少子高齢化に伴う労働力人口の減少が進む中、当施設を含め福祉の現場では、慢性的な人手不足にみまわれており、人材の確保と定着、そして人材育成が大きな課題となっています。一方で支援を受ける利用者の皆さまにも「重度化・高齢化」の波が押し寄せており、その対策はまさにまったなしの状況と言えますが、目の前に支援を必要とする人、そしてその幸せと健康を切に願う、ご家族の存在がある以上、私たちはこの相反する課題を解決し乗り越えていかなければなりません。

かつて福祉の仕事は3K（きつい・汚い・危険）と呼ばれ、マイナスのイメージばかりが先行し、世間から敬遠されがちでしたが、介助をアシストする福祉用具の発達やICTの活用、さらには働き方改革による労働環境の改善等や過重労働からの脱却等も加わり、以前と比べると将来の展望や可能性は大きく開けたように感じます。

福祉の仕事は、人と人とが直接関わり支え合う「やりがいのある仕事」かつ「魅力のある仕事」です。また利用者様と心を通わせ、夢や目標を共有することで、互いの人生の満足度を高め、喜びや感動を分かち合えることのできる仕事でもあります。それは今も昔も変わりありません。今後はその魅力や、やりがい等を地域に向けて積極的に発信し、共に福祉の現場で働いて頂けるよう、法人全体で取り組んでいかなければなりません。

当法人は「地域（ちいき）で輝くあなたらしくわたしらしく」を基本理念として掲げています。障がいのある方も、それを支えるご家族や私たち職員も、すべての人が自分らしく輝いていけるよう、また多くの方に宇和島福祉協会の取り組みと思いを知って頂き、心から信頼して頂けるよう、法人が一丸となり、これからも決してその歩みを止めることなく、日々前進して行きたいと思います。

わたしたち宇和島福祉協会は、これからも地域とともに歩み続けます。

シリーズ：専門職を知る！

栄養士 編

～地域で働く あなたらしく わたしらしく～

豊正園
栄養士　赤松 千恵（あかまつ ちえ）

フレンドまつの
栄養士　西本 美佐紀（にしもと みさき）
（育休中）

フレンドまつの
臨時栄養士　古谷 敏子（ふるや としこ）

ライフまつの
管理栄養士　大塚 綾（おおつか あや）

『栄養士』ってどんなお仕事？

栄養士・管理栄養士の役割は、障がいのある利用者様が快適な日常生活を送り、健康維持をはかるために必要な栄養管理を担うことです。また、利用者様の健康状態や身体状況をふまえた食事提供を行っています。

『栄養ケア計画』とは

「栄養ケア計画」は一人一人の体の機能や状態に合わせて、美味しく安全な食事を口から食べることを目標に、さまざまな職種のスタッフと連携しながら作成することになります。

サービス管理責任者や生活支援員はもちろん、看護職員、理学療法士などとの連携が必要な場面もあり、時には咀しゃくや嚥下上の課題を一緒に解決する観点から、医師と協働することもあります。

栄養士・管理栄養士の実践（食事形態）

利用者様の飲み込みや歯、噛む力などの状態に合わせた食事形態で提供しています。

【さかなの塩焼き】

常　食　／　1口大　／　粗刻み（1cm）　／　細刻み（5㎜以下）　／　極刻み トロミ付き　／　ムース食

栄養士の一日♪

- 8:30 ・調理員との打ち合わせ ・食材の検品・確認 ・在庫の確認
- 9:00 ・朝礼 食数の確認
- 9:30 ・献立作成、食材発注
- 11:00 ・嚥下体操
- 11:30 ・ミールラウンド 利用者様の摂取状況の確認、聞き取り
- 12:30 ・休憩
- 13:15 ・栄養ケア計画の作成 ・モニタリング
- 16:00 ・支援会議
- 16:45 ・翌日の確認 ・衛生点検
- 17:15 ・退勤

今取り組んでいること

利用者様の高齢化が進み、機能低下予防の取り組みとして、理学療法士、看護師、生活支援員と協力し食事前に嚥下体操を行っています。また食事時の姿勢を正すことで誤嚥予防にも繋がっています。嚥下体操を継続することで口から食べるという喜びを持ち続けてほしいと思います。

『食べることは、生きること！！』

仕事のやりがいや魅力は？

施設生活においても、食事の美味しさや季節に応じた楽しさを感じてもらえるよう日々試行錯誤を重ねていますが、その中で利用者様より、“美味しかったよ”や“楽しかった”、“良かったよ”などの声を掛けて頂くと、やってよかったと喜びを感じることができます。

きらり✨福祉人（ふくしびと）

多機能型支援事業所フレンド
主任目標工賃達成指導員
五百木（いほき） 千絵（ちえ）
勤続年数：20 年
（平成 14 年 4 月 1 日）

●この仕事を選んだ理由は何ですか？
地元で仕事を探していた時に、ちょうどライフまつのが開設され、応募しました。

●仕事の面白い部分を教えてください。
自分たちで行事やレクの企画が出来るところです。自分が考えたり携わったりしたもので、利用者さんが喜んでくださるとやりがいを感じます。今は、コロナ禍でなかなか思うように行事が出来ないのですが…出来ることを探して、楽しみを見つけていきたいです。

●仕事の中で大切にしていることはありますか？
笑顔です。今年フレンドでは、「自分たちの支援で利用者様を笑顔にしよう」という目標を掲げ、職員一丸となって取り組んでいます。そのためにまず、自分が笑顔で利用者さんと関わることが大切だと思っています。密かに、出勤前の車の中で口角を上げる体操をしています。

●あなたにとって福祉とは？
利用者さんの幸せのために、手助けする事です。と言っても、利用者さんに助けられたり、仲間に助けられたりすることの方が多いかもしれません。そのことに感謝の気持ちを忘れず、これからも福祉に貢献できるよう頑張りたいと思います。

多機能型支援事業所よしだ
副主任生活支援員
松浦（まつうら） 由弥（ゆうや）
勤続年数：11 年
（平成 23 年 4 月 1 日）

●この仕事を選んだ理由は何ですか？
「福祉」という仕事に興味を持ったのは、自分の祖母が老人施設に入ったのがきっかけです。良くも悪くも、施設に入ってから祖母の状態が変化するのを目の当たりにし、「人と人とのつながり」や「その人を取り巻く環境」の大切さに気付きました。
福祉の専門学校に進み、実習やボランティア、自分自身の身近な存在を通して様々な障がいのある方たちと接する中で、「自分に少しでも出来る事はないか」「喜びや楽しみ、悲しみや辛さを一緒に分かち合いたい」という気持ちが強くなり、「障がい福祉」を選びました。

●仕事の面白い部分を教えてください。
当たり前の事ではあるのですが、「毎日、1日として同じ日がない」ということです。
本当に少しずつ目に見えない成長や小さな発見などがあります。また、それらの成長や発見は、利用者の方々だけでなく職員自身も一緒にしていっているということに、仕事のやりがいや楽しさを感じています。

●仕事の中で大切にしていることはありますか？
「気づきの姿勢」と「待つ姿勢」、「なぜ？の気持ちを持つ」ことを大切にしています。その日の気分や体調によってもそうですが、同じ活動や仕事をしていても出来る時、出来ない時があります。そんな時に、「なんで今日は出来たんだろう？」「なんで今日は表情が暗いんだろう？」という考えや悩みを持つようにしています。そして、自分ひとりだけで解決できない時や支援に行き詰った時には抱え込まず、他の職員さんと悩みを共有しながら一緒に支援方法を考えていくことも大切にしています。

●あなたにとって福祉とは？
「人間だからこそできる、人と人のつながり」だと思っています。思いやりや気遣い、助け合いや支え合いは人間だからこその感情であり、その行為や関係性に悩みや喜びを感じる事も人間だからこそだと思います。「福祉」は特別なことではなく、とても身近なことだと私は考えています。

●この仕事を選んだ理由は何ですか？
障害者支援に興味があり仕事を探していた時に、ちょうどご縁があり働かせていただいています。

●仕事の面白い部分を教えてください。
一人一人の個性と向き合い、考えた支援が上手く行った時がすごく嬉しいです。その何倍も失敗はありますが・・・。
失敗から学ぶ事も沢山あり、色々な価値観に触れることで日々自分の引き出しが増えていくように感じます。

●仕事の中で大切にしていることはありますか？
初心を忘れない事です。仕事に慣れるということは良い面も悪い面もあると思います。勤続年数が増え任せてもらえる仕事が増えるなかでも、「仕事を楽しむ」ことを忘れず利用者さんや職場の仲間と笑顔で仕事に取り組みたいです！！

●あなたにとって福祉とは？
「思いやり」です。利用者さんやその家族、そして一緒に働く職場の人たちへの思いやりの心を大事にしたいです。

障害者支援施設フレンドまつの
生活支援員
田中（たなか） 一漠（たかひろ）
勤続年数：5 年
（平成 29 年 11 月 1 日）

豊正園が移転します

豊正園は、平成元年4月に宇和島市三浦東に知的障害者更生施設として開設して以来、34年余りが経過しました。施設は建物の老朽化に加え、宇和島市の土砂災害警戒区域、南海トラフ地震による津波被害の想定区域となっております。建物に対する安全面での課題から、この度、宇和島市三間町大藤地区に用地を確保し、移転する運びとなりました。令和４年１月から造成工事が始まり、現在下記の完成予想図に向けて工事中です。

新しい施設は「安全・安心・快適」に生活できる総合的な施設として、入所40名、短期入所4名、通所の生活介護15名の定員を予定しています。居室はすべて個室となり、建物の中心に食堂スペース、多目的室を配置し、浴室には機械浴を設置し、障がいの重い方にも利用しやすい配慮をしています。

これからも、施設をご利用する皆様、そして地域の皆様に愛される施設運営に努力を重ねて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

完成予想図

移転地上空写真　R4.11 月末

令和４年９月１３日、建設予定地の宇和島市三間町大藤にて起工式が行われ、地元の自治役員の方をはじめ関係者の方々が参加する中、工事の安全を願いました。その中で、上甲カズ子理事長は「心の準備をしながら完成の日を利用者の方々と共に楽しみにしている」と挨拶しました。

SDGsへの取り組み

宇和島福祉協会では、地域に愛され、地域とともに成長し、地域貢献を考えるきっかけづくりとして、SDGsについて学んでいます。SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標)」の略称で、2030年までに達成する17の大きな目標（ゴール）と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

昨年は外部から講師をお招きし、全職員を対象とした「SDGsカードゲーム研修」を行いました。研修では自分たちの行動が周りの人や世界にどのような影響を与えているのか、また自分の目標を達成できたとしても、世界が目指すべき方向性や目標は達成できているのか等、総合的･包括的に課題を捉える視点を、ゲームを通じて楽しく学ぶことができ、法人としてSDGsに取り組むことの必要性について理解を深めることができました。

SDG s への取り組みはまだまだ始まったばかりですが、職員一人ひとりが意識や行動を見直し、宇和島福祉協会として地域に、社会に何が貢献できるのか、職員みんなで意見を出し合い達成できる目標を掲げ、目標に向かって取り組んでいきたいと思います。

おみ　開運　くじ

謹賀新年

大吉

令和　五年

《運勢》

卯（みずのと・う）

ウサギのようにぴょんぴょん飛躍の一年となるよう努力しよう。この広報誌を見た全ての人に卯れしい事がたくさんありますように。

願望　高価な壺を買えば全て叶います。うっ！詐欺、に気を付けて

待人　宇和島駅発、卯之町駅着にて素敵な出会いがあるかも

商売　ウサギの土鈴がとぶように卯れる

旅行　行先はどこでも卯キ卯キする

健康　目の充血に注意しなさい

失物　ウサギ小屋の中にある

学問　勉強、勉強、しつこく言われると耳をウサギたくなる

ホームページをリニューアルしました

このたび、ホームページをより使いやすく快適にご利用いただけるように、デザインを見直しました。

今後とも、最新の情報を掲載するホームページを目指しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

宇和島福祉協会ホームページ　http://u-fuku-kyo.com

ありがとうございます。

令和5年1月6日、愛媛銀行従業員組合様より加湿空気清浄機２台とスピーカーマイク一式を寄贈していただきました。

ありがとうございます。大切に使わせていただきます。

新型コロナウイルスとインフルエンザの同時感染について

現在海外を主に新型コロナウイルスとインフルエンザの同時感染が流行しています。日本でも感染が報告されていますが、まだ症例は極わずかです。

新型コロナウイルスの影響により手洗いやマスクの着用、消毒を行うことによってインフルエンザの患者数は激減しましたが、今シーズンはインフルエンザが流行すると予想されています。両方のワクチン接種が最も効果的ですが、手洗いうがい、マスクの着用等の予防対策も継続して行うことが好ましいと言われています。

風邪症状やいつもと違う身体の変化が見られた場合には、早目に受診し、今年も気を付けて日々の生活を送りましょう。

フレンドまつの　看護師　是澤 千里

編集後記

新年あけましておめでとうございます。第4号となった広報誌『だんだん』ですが、今号は入所施設が抱える問題を特集として、各施設長に記事作成を依頼しました。年末の忙しい時期に上司に記事をお願いすることのなんと気を遣うことか・・・笑。広報誌の作成に携わっていると、法人の変化を敏感にとらえ、情報を形にして発信する力も必要だと感じています。その目標も踏まえ、宇和島福祉協会ならびに、広報誌『だんだん』を今年もどうぞ宜しくお願いします。

広報委員会一同

山下敬之、小笠原綾、緒賀克美、五百木亮、奥川一路、谷口佳代子、岩崎公大、渡辺航、宇都宮克幸

～地域（ここ）で輝く　あなたらしく　わたしらしく～

社会福祉法人　宇和島福祉協会

本部　〒798-0013　宇和島市御幸町一丁目2番8号
TEL:0895-23-2940　FAX:0895-23-2941

宇和島地区

障害者支援施設　豊正園
施設入所支援　生活介護　短期入所　日中一時支援
〒798-0101 宇和島市三浦東4122番地4
TEL:0895-29-0061　FAX:0895-29-0461

相談支援センター　豊正園
基本相談支援　計画相談支援　障害児相談支援
〒798-0101 宇和島市三浦東4122番地4
TEL:0895-29-0061　FAX:0895-29-0461

多機能型支援事業所　よしだ
就労移行支援　就労継続支援B型　生活介護　日中一時支援
〒799-3703 宇和島市吉田町東小路甲103番地1
TEL:0895-52-2336　FAX:0895-52-3336

きさいやホームうわじま
共同生活援助
〒798-0013 宇和島市御幸町一丁目2番8号
TEL:0895-28-7090

きさいやホームよしだ
共同生活援助　短期入所
〒799-3703 宇和島市吉田町東小路甲183-1
TEL:0895-52-3366

松野地区

障害者支援施設　フレンドまつの
施設入所支援　生活介護　短期入所　日中一時支援
〒798-2103 北宇和郡松野町豊岡4594番地
TEL:0895-42-1122　FAX:0895-42-1004

障害者支援施設　ライフまつの
施設入所支援　生活介護　短期入所　日中一時支援
〒798-2103 北宇和郡松野町豊岡4599番地2
TEL:0895-42-2211　FAX:0895-42-2255

多機能型支援事業所　フレンド
就労継続支援B型　生活介護
〒798-2101 北宇和郡松野町松丸423-1
TEL:0895-42-1335

フレンドホーム
共同生活援助　短期入所
〒798-2103 北宇和郡松野町豊岡4598-2番地
TEL:0895-42-2233　FAX:0895-42-2288

相談支援センターまつの
計画相談支援　障害児相談支援
〒798-2103 北宇和郡松野町豊岡4599番地2
TEL:0895-42-2211　FAX:0895-42-2255

見学や利用のお申し込みについては、各事業所にお問い合わせください

【編集】社会福祉法人 宇和島福祉協会　【印刷】有限会社 大成社